

マップでめぐる多摩の戦争遺跡

昨年の平和特集号では、「平和マップ」を使って都区部3自治体の戦争遺跡を紹介しました。今年が多摩地域の3つの自治体を取り上げ、3支部の役員の方々の協力を得て、自治体などが発行しているマップに掲載されている戦跡を訪ねてみました。

後世に戦争の惨禍を伝える

弾痕だらけの変電所

西武拝島線玉川上水駅そばの東大和南公園を北に向かつて歩いていくと、緑多き草木の中に紛れてポツンと穴だらけの建物が見えてきます。

1938年、このあたりに戦闘機のエンジンを製造する大きな軍需工場が建設されました。それが旧日立航空機(株)立川工場で、この建物は高圧電線を送られてきた電気を減圧して工場内へと送る重

要な変電所でした。

1945年、他の多摩地域一帯の軍需工場と同様に、度重なる米軍の爆撃を受けました。工場の従業員や家族など111人の尊い命が奪われ、建物のほとんどが破壊されました。しかし、変電所は窓枠や扉などは爆風で吹き飛び、壁面には機銃掃射や爆弾の破片による無数のクレーター状の穴ができたものの、奇跡的に生き残りしました。

終戦後、工場は平和産業へ転換することで再興をはかり、変電所は再稼働し、50年近く工場を支えました。1993年、都立公園の整備のため役割を終えた変電所は、多くの地域住民の強い要望により、永久保存されることに。

東大和市は1995年に文化財に指定し、後世に戦争の惨禍を伝えることにしました。



村山大和支部・高橋部長

「自宅からこんなに近くだったとは気づきませんでした」と話すのは、村山大和支部教宣部長の高橋久美子さん。平和行進の時、立川市の砂川支所から長時間歩き、ここでお昼のお弁当を食べて、また東村山の方へ向かって歩いた記憶はあるけど、その時は位置関係がよく分からなかったのだそうです。

「毎年行なわれる『平和市民のつどい』(今年は8月17日に開催)や毎月第2日曜日の午後的一般公開なども、分会

の主婦仲間たちと来てみたいし、分会新聞なども紹介していきたい」と、今後の抱負を語っていただきました。

東大和市

東大和市立郷土博物館(東大和市奈良橋1-260-2)では、「多摩の戦跡写真パネル展」を9月1日まで(午前9時~午後5時、13・19・26日は休館日)、入場無料で開催中。そこで紹介されている多摩地域の戦跡マップをもちょうことができます。

調布飛行場は1939年に陸軍省、通信省(航空局)が東京府と協定書を取り交し、建設することになり、1941年に滑走路と格納庫などが完成しました。敗戦後、占領軍が飛行場に進駐。1973年に米軍からの全面返還を経て、2001年に「東京都調布飛行場」として正式開港しました。

飛行場に隣接する武蔵野の森公園の中に大沢1号、2号

鬼ごっこした掩体壕 今は危険な調布飛行場が



壁に戦闘機「飛燕」の絵が描かれた大沢1号

軍用機を敵の空襲から守るための格納庫。太平洋戦争の戦況が悪化する中、1944年、サイパン島が陥落、米軍による本土空襲が激化すると「本土決戦」に備え、戦闘機を隠しておくために、調布飛行場周辺でも約60基の掩体壕が造られました。現存する大沢1号は入口部分に壁があり戦闘機「飛燕」の絵が描かれ、大沢2号は壁がなく中を見ることが出来ます。

三鷹市

「私が小学校の頃にはこの辺りに掩体壕が4つありましたが、あの頃はそれが戦争に関するものともわからず、ラ

ンドセルを放り投げてのぼり、鬼ごっこをして遊んでいました」と話す調布支部の佐藤眞理子さん。生まれた時に、「窓を開ければ前に飛行場」というくらい近いところに住んでいました。佐藤さんが農家だった祖父から聞いた話では、飛行場建設でお寺が調布市富士見町に複数移動し、戦時中は農機具の金属部分を供出させられたそうです。佐藤さんが調布飛行場へ一番に思い出すのは、2015年7月のセスナ機の墜落事故。知人が犠牲になりました。

「今は民間使用になっていますが、日本が『戦争をする国』になったら、どうなるのか。想像すると本当に恐ろしい」と話していました。



調布支部・佐藤委員長

掩体壕に関するリーフレットは武蔵野の森公園内にあるサービセンターに置かれています。リーフレットには大沢掩体壕の他に、府中市にある白糸台掩体壕や高射砲陣地跡などの戦争遺跡を示した地図も掲載されています。ぜひ活用してみてください。

「こんなところまで空襲されたのか」と山田さんも驚いています。



米軍の攻撃を受けて壁面には多数の穴が

焼夷弾拾った少年時代 生々しく残る焦げ跡



八王子支部・山田部長

「子どもをしながら焼夷弾が拾えたんです」。7月15日、八王子市内の戦跡を八王子支部教宣部長の山田光政さんと訪ねたとき、山田さんが教えてくれました。

戦跡マップを見て、長房町の東照寺にある陸軍幼年学校の碑、美山町の乾農寺(かんしんじ)の山門、台町の戦没者慰霊塔へ向かいました。最初に訪問した東照寺は不在であったため、見学できませんでしたが、乾農寺では空襲で焼け残った山門を見ることができました。

八王子市

美山町のこのあたりはJR八王子駅から8km離れたところ



高さが20mもある慰霊塔

山門は本堂が炎上したときに類焼したものといわれており、確かに焼け焦げた跡が生々しく残っています。現在も山門としての役割を果たしています。戦跡マップは市内18カ所の戦跡を紹介しており、市役所で無料配布されています。

1965年に八王子市域の全戦死者・戦災死没者を慰霊するために建てられたのが、台町の富士森公園にある戦没者慰霊塔です。高さが20メートルあり、近づくとその存在感に圧倒されます。戦禍を語り抜けた市民にとって、記念すべき慰霊塔であり、この日もお参りをする女性の姿がありました。